

日本大学・医学部 II 期

試験日 2023年3月4日 時間 60分 数学I 数学II 数学III 数学A 数学B (数列, ベクトル)

- 1** (1) a を実数とする. x についての 2 次方程式 $x^2 + 4ax = x + 4a$ が重解をもつとき, $a = \frac{\boxed{1}\boxed{2}}{\boxed{3}}$ であり, 重解は, $x = \boxed{4}$ である.
- (2) 円 $(x-1)^2 + (y-2)^2 = 9$ と直線 $x - y - 1 = 0$ の 2 つの交点を A, B とするとき, $AB = \boxed{5}\sqrt{\boxed{6}}$ である.
- (3) $\log_{10} 2 = 0.3010$, $\log_{10} 3 = 0.4771$ とする. 6^{20} は $\boxed{7}\boxed{8}$ 桁の整数である.
- (4) a, b を実数, i を虚数単位とする. 2 次方程式 $x^2 + ax + b = 0$ の解の 1 つが $x = -2 + i$ であるとき, $a = \boxed{9}$, $b = \boxed{10}$ である.
- (5) x, y が不等式 $(x-1)^2 + (y+2)^2 \leq 5$ を満たすとき, $(x-4)^2 + (y-4)^2$ の最小値は $\boxed{11}\boxed{12}$ である.
- 2** A, B の 2 人がじゃんけんを 5 回行う. ただし, あいこも 1 回と数えるものとする.
- (1) あいこの回数がちょうど 3 回となる確率は $\frac{\boxed{13}\boxed{14}}{\boxed{15}\boxed{16}\boxed{17}}$ である.
- (2) あいこがちょうど 3 回連続する確率は $\frac{\boxed{18}\boxed{19}}{\boxed{20}\boxed{21}\boxed{22}}$ である.
- 3** $0 \leq x \leq \pi$ で定義された関数 $f(x) = \sin\left(x + \frac{\pi}{3}\right) + 2\cos\left(x + \frac{\pi}{6}\right)$ について考える.
- (1) $f(x)$ の最大値は $\frac{\boxed{23}\sqrt{\boxed{24}}}{\boxed{25}}$ であり, 最小値は $-\sqrt{\boxed{26}}$ である.
- (2) $f(x)$ が最小となるような x の値を x_m とするとき, $\sin 2x_m = \frac{\boxed{27}\boxed{28}\sqrt{\boxed{29}}}{\boxed{30}\boxed{31}}$ である.
- 4** p は $0 < p < 1$ を満たす定数とする. $\triangle ABC$ の辺 AB を $p : (1-p)$ に内分する点を C_1 , 辺 BC を $p : (1-p)$ に内分する点を A_1 , 辺 CA を $p : (1-p)$ に内分する点を B_1 として $\triangle A_1B_1C_1$ を作る. 以下, n を自然数として, $\triangle A_nB_nC_n$ の辺 A_nB_n を $p : (1-p)$ に内分する点を C_{n+1} , 辺 B_nC_n を $p : (1-p)$ に内分する点を A_{n+1} , 辺 C_nA_n を $p : (1-p)$ に内分する点を B_{n+1} として $\triangle A_{n+1}B_{n+1}C_{n+1}$ を作る. $\triangle ABC$ の面積を S , $\triangle A_nB_nC_n$ の面積を S_n とする.
- (1) $p = \frac{1}{2}$, $S = 4096$ のとき, $S_5 = \boxed{32}$ である.
- (2) $p = \frac{1}{3}$ のとき, $\sum_{k=1}^n S_k = \frac{\boxed{33}}{\boxed{34}} \left\{ 1 - \left(\frac{\boxed{35}}{\boxed{36}} \right)^n \right\} S$ である.
- (3) $p = \frac{\boxed{37} \pm \sqrt{\boxed{38}}}{\boxed{39}\boxed{40}}$ のとき, $\sum_{n=1}^{\infty} S_n = \frac{2}{3} S$ である.
- 5** 四面体 OABC において, 辺 OA, OB, OC をそれぞれ $1 : 1, 1 : 2, 1 : 5$ に内分する点を L, M, N とし, $\triangle LMN$ の重心を G とする. さらに, 直線 OG と平面 ABC の交点を P とする.
- (1) $\vec{OG} = \frac{\boxed{41}}{\boxed{42}} \vec{OA} + \frac{\boxed{43}}{\boxed{44}} \vec{OB} + \frac{\boxed{45}}{\boxed{46}\boxed{47}} \vec{OC}$ である.
- (2) $\frac{OP}{OG} = \boxed{48}$ である.
- (3) 四面体 OPAB, 四面体 OPBC, 四面体 OPCA の体積をそれぞれ V_1, V_2, V_3 とすると, $V_1 : V_2 : V_3 = \boxed{49} : \boxed{50} : \boxed{51}$ である. ただし, 最も簡単な整数比で答えること.

2 日本大学・医学部Ⅱ期

6 関数 $f(x) = \frac{x^2 - 3x}{x^2 + 3}$ について考える.

(1) $f(x)$ の極大値は $\frac{52}{53}$ であり, 極小値は $\frac{54}{56}$ である.

(2) 曲線 $y = f(x)$ と x 軸で囲まれた図形の面積は $57 \log 58 + \frac{\sqrt{59}}{60} \pi - 61$ である. ただし, \log は自然対数を表す.

1 (1) **数学Ⅰ** 【2次方程式】 **基本**

▶ **解答** ◀ $x(x + 4a) = x + 4a$

$$(x + 4a)(x - 1) = 0$$

$x = 1, -4a$ であり, 重解をもつ条件は $-4a = 1$, すなわち $a = -\frac{1}{4}$ であり, 重解 $x = 1$

◆ **別解** ◀ $x^2 + (4a - 1)x - 4a = 0$

$$x = \frac{1 - 4a \pm \sqrt{D}}{2}$$

である. ただし $D = (4a - 1)^2 + 16a = (4a + 1)^2$ である. 重解になるのは $4a + 1 = 0$ のときで $a = -\frac{1}{4}$ であり, 重解 $x = \frac{1 - 4a}{2} = 1$

(2) **数学Ⅱ** 【円と直線】 **基本**

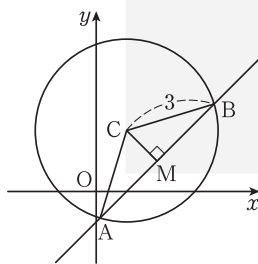
▶ **解答** ◀ 円の中心を $C(1, 2)$ とし, 線分 AB の中点を M とする. C と直線 $x - y - 1 = 0$ の距離から

$$CM = \frac{|1 - 2 - 1|}{\sqrt{1 + 1}} = \frac{2}{\sqrt{2}} = \sqrt{2}$$

三平方の定理を用いて

$$BM = \sqrt{9 - 2} = \sqrt{7}$$

$$AB = 2BM = 2\sqrt{7}$$



(3) **数学Ⅱ** 【常用対数】 **基本**

▶ **解答** ◀ $\log_{10} 6 = \log_{10} 2 + \log_{10} 3$

$$= 0.3010 + 0.4771 = 0.7781$$

$$\log_{10} 6^{20} = 20 \log_{10} 6$$

$$= 20 \cdot 0.7781 = 15.562$$

$$4 = 2^2 = (10^{0.301})^2 = 10^{0.602}$$

$$3 = 10^{0.4771}$$

$$3 < 10^{0.562} < 4$$

$$3 \cdot 10^{15} < 6^{20} < 4 \cdot 10^{15}$$

6^{20} は **16桁** であり最高位は **3** である.

(4) **数学Ⅱ** 【解と係数の関係】 **基本**

▶ **解答** ◀ $x^2 + ax + b = 0$ は実数係数であるから $-2 + i$ が解ならば $-2 - i$ も解で, 解と係数の関係より

$$a = -(-2 + i) - (-2 - i) = 4$$

$$b = (-2 + i)(-2 - i) = 4 + 1 = 5$$

(5) **数学Ⅱ** 【円の方程式】 **基本**

▶ **解答** ◀ $D: (x - 1)^2 + (y + 2)^2 \leq 5$ は, 円

$$C: (x - 1)^2 + (y + 2)^2 = 5$$

の周と内部を表す. $A(1, -2), B(4, 4)$ とする. D 内の点を $P(x, y)$ とする.

$$AP + PB \geq AB = \sqrt{(4 - 1)^2 + (4 + 2)^2} = 3\sqrt{5}$$

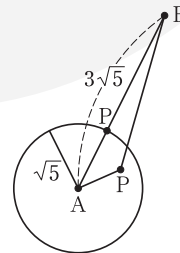
$$BP \geq AB - AP \geq 3\sqrt{5} - \sqrt{5} = 2\sqrt{5}$$

$$BP \geq 2\sqrt{5}$$

等号は A, P, B がこの順に一直線上にあり, P が C の周上にあるときに成り立つ.

$$(x - 4)^2 + (y - 4)^2 = BP^2 \geq (2\sqrt{5})^2 = 20$$

求める最小値は **20**



注意 最近では三角不等式を用いて論証することができない人が多い.

2 **数学A** 【独立試行・反復試行の確率】 **標準**

▶ **解答** ◀ (1) 2人が1回じゃんけんをするとき, あいこになるのは

$(A, B) = (\text{グー}, \text{グー}), (\text{チョキ}, \text{チョキ}), (\text{パー}, \text{パー})$

の3通りあるから、あいことなる確率は

$$\frac{3}{3^2} = \frac{1}{3}$$

である。よって、5回中ちょうど3回あいことなる確率は

$${}^5C_3 \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(1 - \frac{1}{3}\right)^2 = 10 \cdot \frac{1}{3^3} \cdot \frac{2^2}{3^2} = \frac{40}{243}$$

(2) あいこを○, あいこでないことを×, どちらでもよいことを△とする。あいこがちょうど3回連続するのは

$$\text{○○○} \times \Delta$$

$$\times \text{○○○} \times$$

$$\Delta \times \text{○○○}$$

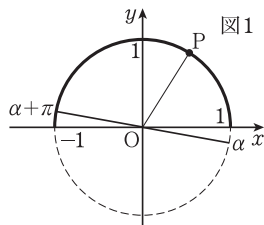
となるときである。求める確率は

$$\begin{aligned} & \left(\frac{1}{3}\right)^3 \cdot \frac{2}{3} \cdot 2 + \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \\ &= \frac{12+4}{3^5} = \frac{16}{243} \end{aligned}$$

3 **【数学Ⅱ】【加法定理とその応用】標準**

▶解答◀ (1) $f(x) = \sin x \cos \frac{\pi}{3}$
 $+ \cos x \sin \frac{\pi}{3} + 2 \cos x \cos \frac{\pi}{6} - 2 \sin x \sin \frac{\pi}{6}$
 $= \frac{1}{2} \sin x + \frac{\sqrt{3}}{2} \cos x + \sqrt{3} \cos x - \sin x$
 $= \frac{1}{2} (3\sqrt{3} \cos x - \sin x)$
 $= \frac{\sqrt{28}}{2} \left(\frac{3\sqrt{3}}{\sqrt{28}} \cos x + \frac{-1}{\sqrt{28}} \sin x \right)$
 $= \sqrt{7} \cos(x - \alpha)$

α は $\cos \alpha = \frac{3\sqrt{3}}{2\sqrt{7}}, \sin \alpha = \frac{-1}{2\sqrt{7}}, -\frac{\pi}{2} < \alpha < 0$ を満たす角である。 $x=0$ で最大値 $\frac{3\sqrt{3}}{2}$ をとる。 $x-\alpha=\pi$ で最小値 $-\sqrt{7}$ をとる。図の太線は点 $P(\cos x, \sin x)$ の存在範囲で、 α との開きが一番小さいところ $x=0$ で最大、一番開くとき $x-\alpha=\pi$ で最小になる。



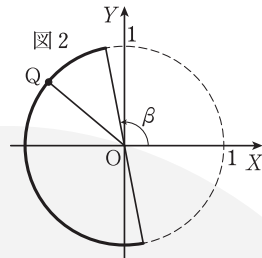
(2) $x_m = \alpha + \pi$ であるから

$$\begin{aligned} \sin 2x_m &= \sin(2\alpha + 2\pi) = \sin 2\alpha \\ &= 2 \sin \alpha \cos \alpha = 2 \cdot \frac{-3\sqrt{3}}{4 \cdot 7} = -\frac{3\sqrt{3}}{14} \end{aligned}$$

◆別解◆ \sin でも合成しておく。

$$\begin{aligned} (1) f(x) &= \frac{3\sqrt{3}}{2} \cos x - \frac{1}{2} \sin x \\ &= \frac{\sqrt{28}}{2} \left(-\frac{1}{\sqrt{28}} \sin x + \frac{3\sqrt{3}}{\sqrt{28}} \cos x \right) \\ &= \sqrt{7} \sin(x + \beta) \end{aligned}$$

β は $\cos \beta = -\frac{1}{2\sqrt{7}}, \sin \beta = \frac{3\sqrt{3}}{2\sqrt{7}}, \frac{\pi}{2} < \beta < \pi$ を満たす角である。



$0 \leq x \leq \pi$ より $\beta \leq x + \beta \leq \pi + \beta$ である。図2の太線は $Q(\cos(x + \beta), \sin(x + \beta))$ の存在範囲である。 $f(x)$ が最大となるのは $x + \beta = \beta$ のときで、 $x=0$ である。最大値は $f(0) = \frac{3\sqrt{3}}{2}$

また、 $f(x)$ が最小となるのは $x + \beta = \frac{3}{2}\pi$ のときで、最小値は $-\sqrt{7}$

(2) $x_m = \frac{3}{2}\pi - \beta$ であるから
 $\sin 2x_m = \sin(3\pi - 2\beta)$
 $= \sin 2\beta = 2 \sin \beta \cos \beta = -\frac{3\sqrt{3}}{14}$

4 **【数学Ⅲ】【無限等比級数】標準**

▶解答◀ (1) $S = S_0$ とおくと、 $n \geq 0$ に対して

$$\begin{aligned} S_{n+1} &= \Delta A_{n+1} B_{n+1} C_{n+1} \\ &= \Delta A_n B_n C_n - \Delta A_n B_{n+1} C_{n+1} \\ &\quad - \Delta A_{n+1} B_n C_{n+1} - \Delta A_{n+1} B_{n+1} C_n \\ &= S_n - p(1-p)S_n - p(1-p)S_n - p(1-p)S_n \\ &= (3p^2 - 3p + 1)S_n \end{aligned}$$

である。 $3p^2 - 3p + 1 = r$ とおくと、 $S_{n+1} = rS_n$ より

$$S_n = r^n S_0 = r^n S$$

となる。

$$p = \frac{1}{2}, S = 4096 = 2^{12} \text{ のとき}$$

$$r = 3 \cdot \frac{1}{4} - 3 \cdot \frac{1}{2} + 1 = \frac{1}{4}$$

であるから

$$S_5 = \left(\frac{1}{4}\right)^5 \cdot 2^{12} = \frac{4^6}{4^5} = 4$$

4 日本大学・医学部Ⅱ期

(2) $p = \frac{1}{3}$ のとき

$$r = 3 \cdot \frac{1}{9} - 3 \cdot \frac{1}{3} + 1 = \frac{1}{3}$$

であるから

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n S_k &= \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{3}\right)^k S \\ &= \frac{1}{3} \cdot \frac{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^n}{1 - \frac{1}{3}} S = \frac{1}{2} \left\{ 1 - \left(\frac{1}{3}\right)^n \right\} S \end{aligned}$$

(3) $r = 3\left(p - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4}$ より, $0 < p < 1$ のとき $\frac{1}{4} < r < 1$ であるから, 無限等比級数 $\sum_{n=1}^{\infty} S_n$ は収束し, その和は

$$\sum_{n=1}^{\infty} S_n = rS \cdot \frac{1}{1-r}$$

である. これが $\frac{2}{3}S$ と一致するのは

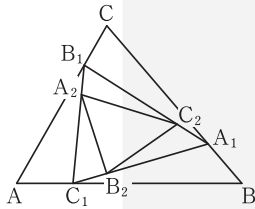
$$\frac{r}{1-r} = \frac{2}{3}$$

のときであり $r = \frac{2}{5}$

$$3p^2 - 3p + 1 = \frac{2}{5}$$

$$5p^2 - 5p + 1 = 0 \quad \therefore p = \frac{5 \pm \sqrt{5}}{10}$$

これは $0 < p < 1$ を満たす.



5 **数学B** 【ベクトルと図形(空間)] **標準**

▶解答◀ (1) $\vec{OL} = \frac{1}{2}\vec{OA}$,

$\vec{OM} = \frac{1}{3}\vec{OB}$, $\vec{ON} = \frac{1}{6}\vec{OC}$ であるから,

$$\vec{OG} = \frac{1}{3}(\vec{OL} + \vec{OM} + \vec{ON}) = \frac{1}{6}\vec{OA} + \frac{1}{9}\vec{OB} + \frac{1}{18}\vec{OC}$$

(2) P は直線 OG 上の点であるから

$$\vec{OP} = s\vec{OG} = \frac{1}{6}s\vec{OA} + \frac{1}{9}s\vec{OB} + \frac{1}{18}s\vec{OC}$$

と表せて, P は平面 ABC 上にあるから

$$\frac{1}{6}s + \frac{1}{9}s + \frac{1}{18}s = 1 \quad \therefore s = 3$$

である. よって

$$\frac{OP}{OG} = s = 3$$

(3) 平面 ABC を底面として, 高さをは h とおくと

$$V_1 : V_2 : V_3 = \frac{h}{3} \Delta PAB : \frac{h}{3} \Delta PBC : \frac{h}{3} \Delta PCA$$

$$= \Delta PAB : \Delta PBC : \Delta PCA$$

である. (2) より

$$\vec{OP} = \frac{1}{2}\vec{OA} + \frac{1}{3}\vec{OB} + \frac{1}{6}\vec{OC}$$

$$\vec{AP} - \vec{AO} = -\frac{1}{2}\vec{AO} + \frac{1}{3}(\vec{AB} - \vec{AO}) + \frac{1}{6}(\vec{AC} - \vec{AO})$$

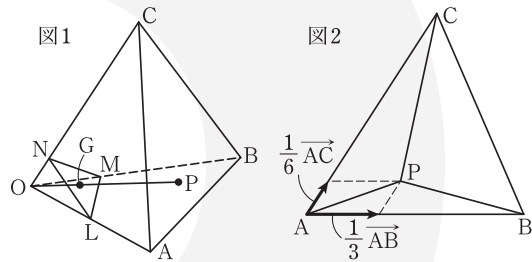
$$\vec{AP} = \frac{1}{3}\vec{AB} + \frac{1}{6}\vec{AC} \quad \text{.....①}$$

となる. 図2を見よ. ΔABC と ΔPCA について, 辺 CA を底辺とすれば高さの比は $1 : \frac{1}{3}$ であるから, $\Delta PCA = \frac{1}{3} \Delta ABC$ である. ΔABC と ΔPAB について, 辺 AB を底辺とすれば高さの比は $1 : \frac{1}{6}$ であるから, $\Delta PAB = \frac{1}{6} \Delta ABC$ である.

$$\begin{aligned} \Delta PBC &= \Delta ABC - \Delta PCA - \Delta PAB \\ &= \left(1 - \frac{1}{3} - \frac{1}{6}\right) \Delta ABC = \frac{1}{2} \Delta ABC \end{aligned}$$

であるから

$$\begin{aligned} V_1 : V_2 : V_3 &= \Delta PAB : \Delta PBC : \Delta PCA \\ &= \frac{1}{6} : \frac{1}{2} : \frac{1}{3} = 1 : 3 : 2 \end{aligned}$$



【注意】私は①で, 平行四辺形の形で $\frac{1}{3}\vec{AB}$ と $\frac{1}{6}\vec{AC}$ の和を図示するのが本筋であると思っている. しかし, 古くは \vec{AP} を延長する人が多かった.

$$\vec{AP} = \frac{1}{2} \cdot \frac{2\vec{AB} + \vec{AC}}{3}$$

AP の延長と BC の交点を Q とする.

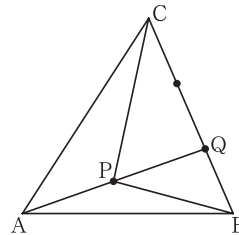
$$BQ : QC = 1 : 2$$

$$AP : PQ = 1 : 1$$

$$\Delta PAB = \frac{1}{2} \Delta QAB = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} \Delta ABC$$

$$\Delta PCA = \frac{1}{2} \Delta QCA = \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3} \Delta ABC$$

$$\Delta PBC = \left(1 - \frac{1}{6} - \frac{2}{6}\right) \Delta ABC = \frac{3}{6} \Delta ABC$$



6 数学Ⅲ 【面積】 標準

▶解答◀ (1) $f(x) = \frac{x^2 - 3x}{x^2 + 3}$

$$f'(x) = \frac{(2x-3)(x^2+3) - (x^2-3x) \cdot 2x}{(x^2+3)^2}$$

$$= \frac{3x^2 + 6x - 9}{(x^2+3)^2} = \frac{3(x+3)(x-1)}{(x^2+3)^2}$$

であるから、 $f(x)$ の増減は次のようになる。

x	…	-3	…	1	…
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗		↘		↗

よって、極大値は

$$f(-3) = \frac{9 - 3 \cdot (-3)}{9 + 3} = \frac{3}{2}$$

であり、極小値は

$$f(1) = \frac{1 - 3}{1 + 3} = -\frac{1}{2}$$

(2) $f(x) = 0$ となるのは

$$x^2 - 3x = 0 \quad \therefore x = 0, 3$$

のときであり、 $0 \leq x \leq 3$ のとき $f(x) \leq 0$ である。

$$f(x) = \frac{(x^2+3) - 3x - 3}{x^2+3} = 1 - \frac{3x+3}{x^2+3}$$

であるから、求める面積 S は

$$S = \int_0^3 \{-f(x)\} dx = \int_0^3 \left(\frac{3x+3}{x^2+3} - 1 \right) dx$$

$$= 3 \int_0^3 \frac{x}{x^2+3} dx + 3 \int_0^3 \frac{1}{x^2+3} dx - 3$$

となる。ここで

$$\int_0^3 \frac{x}{x^2+3} dx = \frac{1}{2} \int_0^3 \frac{(x^2+3)'}{x^2+3} dx$$

$$= \frac{1}{2} \left[\log |x^2+3| \right]_0^3 = \frac{1}{2} (\log 12 - \log 3)$$

$$= \frac{1}{2} \log 4 = \log 2$$

$$x = \sqrt{3} \tan \theta \quad \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2} \right) \text{ とおくと}$$

$$\frac{dx}{d\theta} = \frac{\sqrt{3}}{\cos^2 \theta}$$

x	0 → 3
θ	0 → $\frac{\pi}{3}$

であるから

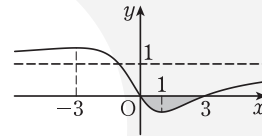
$$\int_0^3 \frac{1}{x^2+3} dx = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{3(\tan^2 \theta + 1)} \cdot \frac{dx}{d\theta} d\theta$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{3 \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta}} \cdot \frac{\sqrt{3}}{\cos^2 \theta} d\theta = \frac{\sqrt{3}}{3} \int_0^{\frac{\pi}{3}} d\theta$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{3} \cdot \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{9} \pi$$

したがって、

$$S = 3 \log 2 + \frac{\sqrt{3}}{9} \pi - 3$$



◆要の分析 馴染み深い典型問題が並んでいる。難問はなく、素早く正確な計算力が要求されている。(SM, 渡邊, 都賀, 坂本賀, 前田拓, 安田亨)